

劇場の建築造形

—1925年パリ現代装飾美術・工芸美術国際博覧会の展示館に関する考察 その4—

日本建築学会計画系論文集/No. 631/ pp. 1997-2003/ 2008年9月

正会員 三田村 哲 哉 君

1925年パリ現代装飾美術・工芸美術国際博覧会におけるオーギュスト・ペレの劇場建築を対象に、万博会場計画の中での「設計条件」と造形面の特徴とを関連付けながら、建築家の設計意図、計画上の制約、また革新的な舞台美術からの影響などを明らかにした労作である。

初期の万博会場計画において、劇場が技能館の付帯建築として計画されていた当初案から独立した展示館として計画、建設されるに至った変遷や、会場計画で先行的に決められていたエントランスなどの他に、客席の向きの変更や分割など建築家独自の提案を平面資料から解読している点は説得力が高い。また舞台形式については当時の先進的な演出家の提案を取り入れたことを明らかにしている。建築家の言説や作品に関する記述など当時の資料による考察は資料性が高く、劇場建築の意匠論研究に新たな知見を与えるものとして奨励賞に相応しい内容となっている。さらなる発展に期待を持たせる優れた研究である。